

経営比較分析表（令和6年度決算）

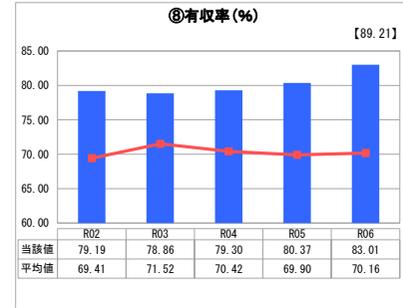
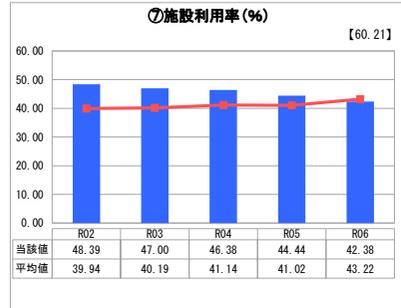
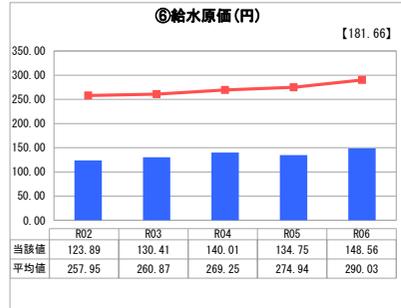
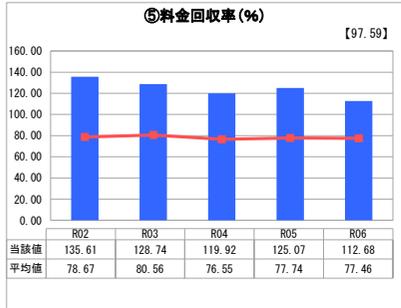
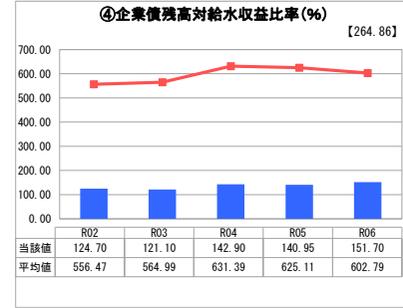
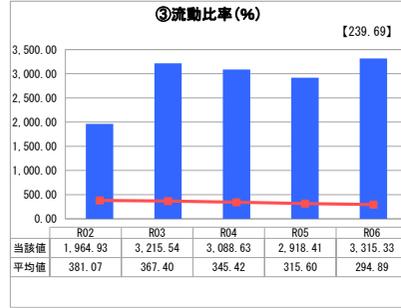
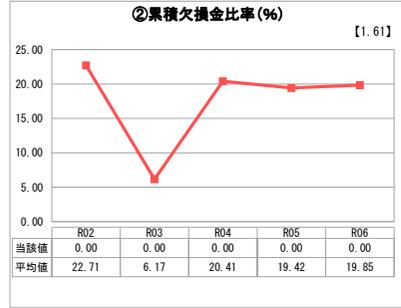
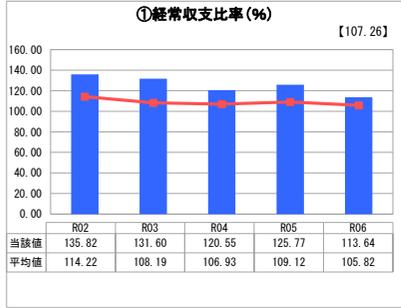
佐賀県 太良町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A9	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	82.66	42.62	3,080	

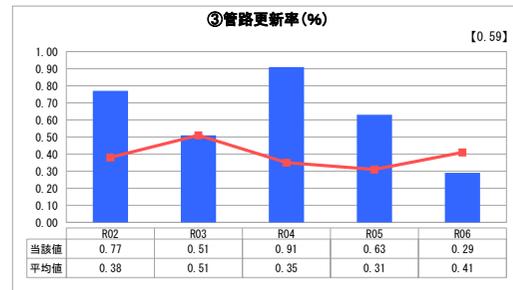
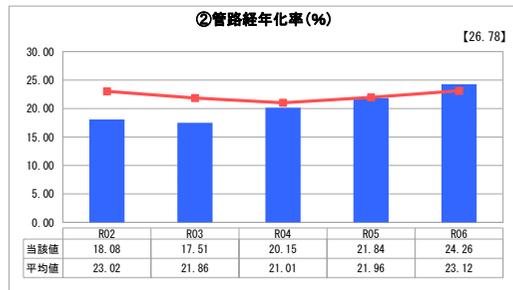
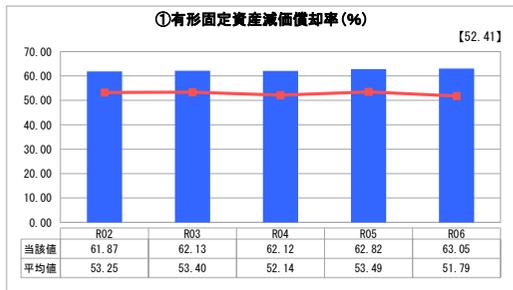
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
7,874	74.30	105.98
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
3,321	6.70	495.67

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

○経常収支比率については、昨年度と比較して約12%の減少となった。主な原因は給水収益が減少となった事によるものである。しかしながら、今後も人口減少による給水収益の減、動力費及び委託業務の増加などにより経営は厳しくなっていくと予想される。

○流動比率については、昨年度と比較して約39%増加となった。これは、現金預金の増加によるものである。今後は、施設の管路更新(耐震化)が緊急の課題となっているため、現金預金の減少・起債の増加が見込まれるが、他会計からの繰入が見込まれないため、資産・負債のバランスを回り経営に努める必要がある。

○企業債残高対給水収益比率については、類似団体と比較しても低い数値であるが、今後、給水収益の減少に伴い、管路更新に係る企業債借入により、数値の増加が予想される。

○料金回収率については、給水に係る費用が安価であるため給水収益により賅っているが、今後、物価高騰や施設の維持管理費等による費用の増加が懸念される。

○給水原価については、各年度に比べ費用の有収水量の減少により約10%の増加であったが、今後も費用の増加の有収水量の減少に伴い、増加していくと予想される。

○施設利用率については、50%未満と低く、給水人口の減少・生活様式の変化が要因となり減少傾向である。今後、継続的な給水人口の増加が見込めないため、将来的な施設の統廃合・ダウンサイジング等の検討も必要である。

○有収率については、類似団体と比較しても高い数値を維持している状況であるが、近年は横ばいの状況であったが、今年度については3%程度改善できた。今後も定期的な漏水調査・修繕を進める必要がある。

2. 老朽化の状況について

供用開始から50年を経過しており、償却を終えた管路も年々増加傾向にある。経年化が進んでも関わらず、更新が進んでないのが現状である。水道施設全体に必要な更新を計画的に進めなければならない。

全体総括

今後、人口減少に伴う収益の減少、職員給与費や物価高騰等の費用の増加により、水道事業における財政状況は厳しさを増すと考えられる。また、老朽管更新・耐震化など更新工事等の増加が見込まれるため更なる財源確保が必要となる。

また、人材確保の観点においては、簡易水道事業を含め5名体制の確保と、若手職員の配置など人事部局と協議しながら、人件費抑制に努めると共に、人材育成を図り水道事業の安定運営につなげていきたいと考えている。

最後に、今後は利用者サービスの向上や施設の耐震化等も含めて、総合的な施設運用の検討、水道料金の改定など、経営の健全化・効率化が必要になると考えられる。